

株式会社やまや

2023年3月期

決算説明資料

2022年4月1日～2023年3月31日



宮城県仙台市宮城野区榴岡3丁目4-1

アゼリアヒルズ19階

TEL 022-742-3114(経理部)

FAX 022-742-3100

第1部：連結 2023年3月期 決算業績

連結 2023年3月期 実績

■ 売上高	1,527.6 億円	(前年同期比 6.5%)
■ 営業利益	28.3 億円	(前年同期比 341.2%)
■ 経常利益	29.5 億円	(前年同期比 △66.4%)
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	19.3 億円	(前年同期比 △56.1%)
■ EBITDA	43.6 億円	(前年同期比 △57.4%) ※EBITDA=経常利益+支払利息+減価償却費+のれん償却額

参考: 営業外収益

雇用調整助成金

0.5 億円 (前年実績 15.9 億円)

新型コロナウイルス拡大防止協力金

0.2 億円 (前年実績 64.5 億円)

単位: 百万円

	2022年3月期(前期)		2023年3月期(当期)					
	実績	構成比	業績予想	構成比	実績	構成比	予想比	前期比
売上高	143,420	-	152,000	-	152,764	-	0.5%	6.5%
売上総利益	35,007	24.4%	41,000	27.0%	41,333	27.1%	0.8%	18.1%
販管費	34,364	24.0%	38,200	25.1%	38,495	25.2%	0.8%	12.0%
営業利益	643	0.4%	2,800	1.8%	2,837	1.9%	1.3%	341.2%
経常利益	8,781	6.1%	2,800	1.8%	2,953	1.9%	5.5%	△66.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,401	3.1%	1,800	1.2%	1,930	1.3%	7.2%	△56.1%
EBITDA	10,262	-	-	-	4,369	-	-	△57.4%

株式会社D&D

セグメント別 2023年3月期 実績

● 酒販事業

■ 売上高 1,303.1 億円 (前年同期比 $\Delta 1.0\%$)
 ■ 営業利益 41.0 億円 (前年同期比 $\Delta 16.5\%$)

● 外食事業

■ 売上高 227.0 億円 (前年同期比 87.1%)
 ■ 営業利益 $\Delta 12.7$ 億円 (前年同期比 -)

単位:百万円

	2022年3月期(前期)				2023年3月期(当期)					
	酒販事業		外食事業		酒販事業			外食事業		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	前期比	実績	構成比	前期比
売上高	131,605	-	12,133	-	130,316	-	$\Delta 1.0\%$	22,705	-	87.1%
売上総利益	27,087	20.6%	7,965	65.6%	26,705	20.5%	$\Delta 1.4\%$	14,672	64.6%	84.2%
販管費	22,173	16.8%	12,247	100.9%	22,604	17.3%	1.9%	15,947	70.2%	30.2%
営業利益	4,914	3.7%	$\Delta 4,282$	$\Delta 35.3\%$	4,101	3.1%	$\Delta 16.5\%$	$\Delta 1,274$	$\Delta 5.6\%$	-

株式会社P&P

連結財務状況 2023年3月期 (バランスシート)

- 総資産 592.7 億円 (前期末比 $\Delta 2.8\%$)
- 負債 296.8 億円 (前期末比 $\Delta 6.9\%$)
- 純資産 295.9 億円 (前期末比 1.7%)
- 自己資本 288.4 億円 (前期末比 5.1%)

単位:百万円

	2022年3月期 期末	2023年3月期 期末	前期末比
流動資産	37,540	36,481	$\Delta 2.8\%$
固定資産	23,437	22,794	$\Delta 2.7\%$
流動負債	24,762	22,957	$\Delta 7.3\%$
固定負債	7,130	6,725	$\Delta 5.7\%$
純資産	29,084	29,592	1.7%
総資産	60,977	59,275	$\Delta 2.8\%$

■ 資産に関するポイント

現金及び預金 117.4億円 ($\Delta 20.4$ 億円)
 商品及び製品 177.8億円 (+19.6億円)
 有形固定資産 107億円 ($\Delta 2.1$ 億円)
 のれん 19.7億円 ($\Delta 1.8$ 億円)

■ 負債に関するポイント

買掛金 103億円 (+10.8億円)
 短期借入金 70億円 ($\Delta 30$ 億円)
 1年内返済予定の長期借入金 1.5億円 ($\Delta 0$ 億円)
 長期借入金 27.8億円 ($\Delta 2.7$ 億円)

■ 純資産に関するポイント

利益剰余金 195.6億円 (+13.6億円)
 非支配株主持分 7.4億円 ($\Delta 8.8$ 億円)

株式会社やまや

連結財務状況 2023年3月期（キャッシュ・フロー）

単位:百万円

	2022年3月期	2023年3月期
	連結累計	連結累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,441	3,087
税金等調整前当期純利益	6,842	2,407
減価償却費・のれん償却費	1,403	1,331
雇用調整助成金の未収	109	197
仕入債務の増加	△539	1,085
その他合計	△3,374	△1,933
投資活動によるキャッシュ・フロー	△494	△1,143
固定資産の取得による支出	△1,054	△1,218
その他合計	560	75
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,180	△3,990
短期借入金の純増減額	△550	△3,000
長期借入金の借入による収入	2,500	-
長期借入金等の返済による支出	△227	△331
配当金、その他の支出	△543	△659
現金及び現金同等物の増減額	5,127	△2,046
現金及び現金同等物の期首残高	8,664	13,791
現金及び現金同等物の期末残高	13,791	11,745

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益 24.0 億円

減価償却費 11.2 億円

のれん償却費 1.8 億円

たな卸資産の増減額 △19.5 億円

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出 △12.1 億円

差入保証金の回収による収入 4.0 億円

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額 △5.6 億円

株式会社ヤマダ

連結 2023年3月期 業績予想

- 売上高 1,547.0 億円 (前年同期比 1.3%)
- 営業利益 36.2 億円 (前年同期比 27.6%)
- 経常利益 35.6 億円 (前年同期比 20.6%)
- 親会社株主に帰属する当期純利益 21.0 億円 (前年同期比 8.8%)

単位:百万円

	2023年3月期		2024年3月期		
	実績	構成比	業績予想	構成比	前期比
売上高	152,764	-	154,700	-	1.3%
営業利益	2,837	1.9%	3,620	2.3%	27.6%
経常利益	2,953	1.9%	3,560	2.3%	20.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,930	1.3%	2,100	1.4%	8.8%

(2023年3月期予想セグメント別)

	酒販事業		外食事業	
	業績予想	前期比	業績予想	前期比
売上高	129,250	△0.8%	26,048	14.7%

株式会社ヤマザキ

連結 2023年3月期 業績のポイント

当連結会計年度(2022年4月1日～2023年3月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、行動規制の緩和等により経済活動に回復の動きは見られたものの、エネルギー価格、食料品を中心とした急速な物価上昇により、消費マインドの冷え込みが懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。このような環境の中、当社グループは、お客様に安心して店舗をご利用いただける環境づくりに努めるとともに、ウィズコロナの中で、お客様の消費行動の変化に対応した商品やサービスの提供に努めるとともに、今後の成長に向けた新規出店や既存店の活性化、及び事業の更なる効率化に取り組んでまいりました。

当連結会計年度(2022年4月1日～2023年3月31日まで)における当社グループ連結業績は、酒販事業売上高が1,303億16百万円と堅調に推移し、外食事業売上高は、新型コロナウイルス感染症が収束傾向となり、インバウンド需要の増加、各種イベントの再開等により回復傾向となったことで227億5百万円となり、連結売上高は1,527億64百万円(前年同期比6.5%増)となりました。連結営業利益につきましては、販管費において、電気代及び人件費の増加による影響はあったものの、外食事業の営業損失が大幅に減少したことにより28億37百万円(前年同期比341.1%増)となりました。連結経常利益は、外食事業において新型感染症拡大防止協力金等の計上が減少したため29億53百万円(前年同期比66.4%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、19億30百万円(前年同期比56.1%減)となりました。

当連結会計年度末において、酒販事業351店(前年同期比6店増)、外食事業668店(同53店減)、グループ合計店舗数1,019店(同47店減)を運営しています。セグメント別の業績は、次のとおりであります。

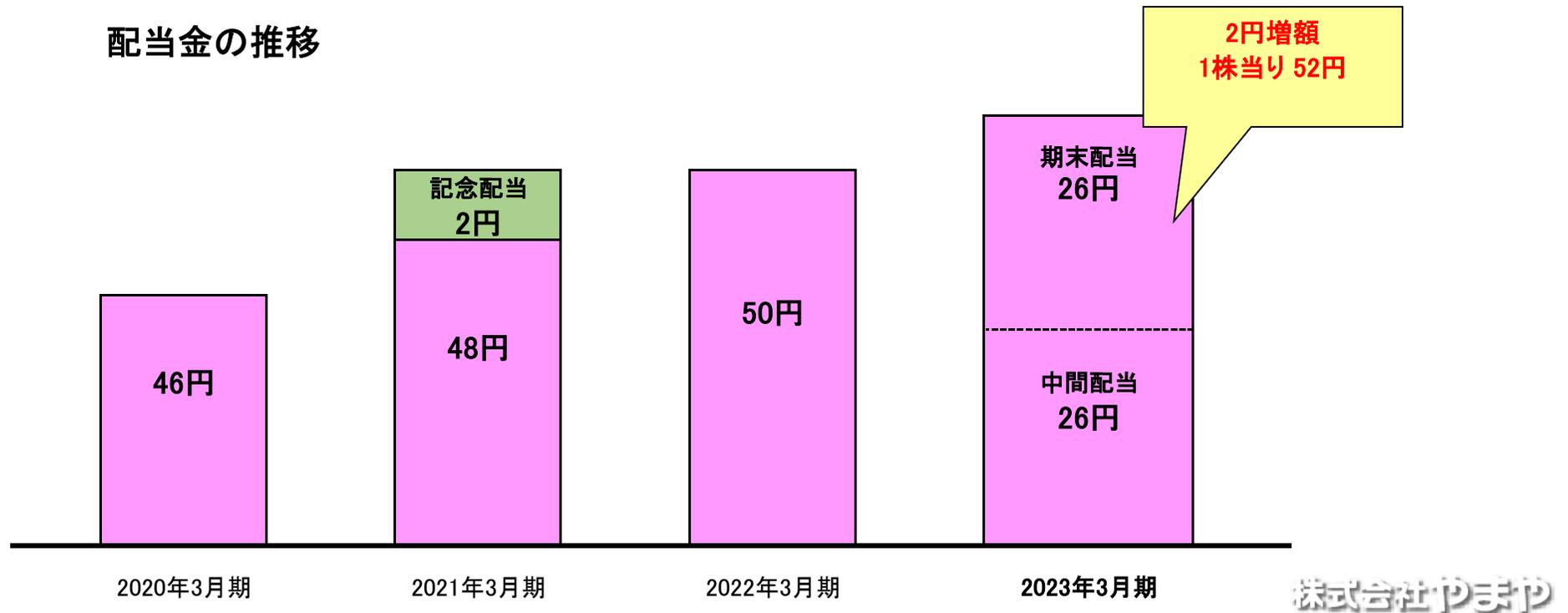
(酒販事業) 酒販事業における売上高は1,303億16百万円(前年同期比1.0%減)、営業利益は41億1百万円(同16.5%減)となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響による巣ごもり需要が減少しました。行動制限の緩和により、外出機会が増加し、10月からは全国旅行支援が開始されるなど、お客様のニーズに合わせ、キャンプ商材や手土産商材の品揃えを充実させました。大手ビールメーカーが10月から値上げをしたため、9月中に大きな買い置き需要が起きました。11月にサッカーワールドカップ、3月にWBCが開催され、スポーツ観戦のための家飲みのお酒の機会も増え、ビールをはじめ世界各国のお酒の紹介やカクテルなど新しい飲み方の提案を積極的に行いました。各自治体独自に実施されたキャッシュレス決済キャンペーンでは、一部の店舗でお客様の来店機会の増加に繋がりました。

築館店(宮城県)は移転し、新規出店として、宮古宮町店・前沢店(岩手県)、湊鹿妻店(宮城県)、鉄砲町店(山形県)、志木中宗岡店(埼玉県)、岡山平井店(岡山県)、姪浜小戸店(福岡県)の計8店を開設しました。また、山形業務店(山形県)を閉店しました。これにより、2023年3月末における酒販事業の総店舗数は、351店舗(前年同期比6店増)となりました。

(外食事業) 外食事業における売上高は227億5百万円(前年同期比87.1%増)、営業損失は12億74百万円(前年同期は営業損失42億82百万円)となりました。外食業界におきましては、4月から6月においては経済活動の正常化が進み、売上高に緩やかな回復が見られましたが、6月下旬頃から感染者数が増加すると、大人数での会食や宴会に対する自主的な自粛の雰囲気が高まり、宴会のキャンセルが相次ぐなど、居酒屋業態は厳しい状況が続きました。しかし、その後は感染者数の減少に伴い、9月以降の売上高は回復基調にあります。このような状況のなか、当社グループはお客様と従業員の安全・安心を第一として、感染拡大防止と経済活動の両立を図りながら営業に努めてまいりました。また、原材料及びエネルギー価格等の上昇への対応も必要不可欠となっております。コロナ前及びコロナ禍を経て、お客様のライフスタイルや価値観が変化し、個店ごとの存在価値を高めていくことが重要となっているなか、居酒屋需要が回復基調に転じた後は、変化するお客様のニーズを先読みした集客対策を実施してきました。宴会ニーズの変化スピードも速く、少人数から大人数需要へ、席予約からコース宴会予約へ、個室需要の高まりなど、その時々々のニーズに先回りした、ターゲット別に開発した商品の打ち出しを行い、集客に活かしてきました。コロナ禍で減少した「大箱店舗」の特性を活かし、インバウンド団体や国内旅行団体の集客も順調に推移しました。お客様に居心地の良い空間を提供するため、必要に応じて業態転換及びリフレッシュ改装を進めました。各種値上がりの対応としましては、配膳ロボット、スマホオーダー、モバイルPOSの導入などのDX推進を継続するとともに、生産性の向上とコストの抑制に努め、損益分岐点売上高の維持と更なる引き下げの努力を継続しております。

配当政策について

- 当社は、安定的な配当を継続することが配当政策上重要であると考えております。さらに、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実を勘案して、株主への配当を実施していくことを基本方針とし、中間配当と期末配当の年2回の配当を行うことにしております。
- 2023年3月期の期末配当金につきましては、通期の連結決算業績を考慮し、1株あたり普通配当26円といたします。既に実施済みの、2022年9月30日を基準日とする中間配当金1株あたり普通配当26円と合わせ、2023年3月期の年間配当金は1株あたり52円となります。



業態(屋号)別店舗数について
2023年3月末

〈酒販事業〉	総店舗数	うちダイソー併設店舗数
やまや	343	44
業務店・通販	8	0
酒販計	351	44

〈外食事業〉	総店舗数	うち直営店	うちFC店
はなの舞	108	51	57
さかなや道場	109	81	28
安べゑ	33	33	0
牛星	9	4	5
他業態(チムニー)	116	50	66
コントラクト	94	94	0
新橋やきとん	18	18	0
豊丸・鶴金	9	9	0
牛星(株シーズライフ運営)	11	11	0
つぼ八	135	2	133
伊藤課長・焼肉の達人	11	1	10
他業態(つぼ八)	15	1	14
外食計	668	355	313

グループ総店舗数	1,019
-----------------	--------------

株式会社やまや

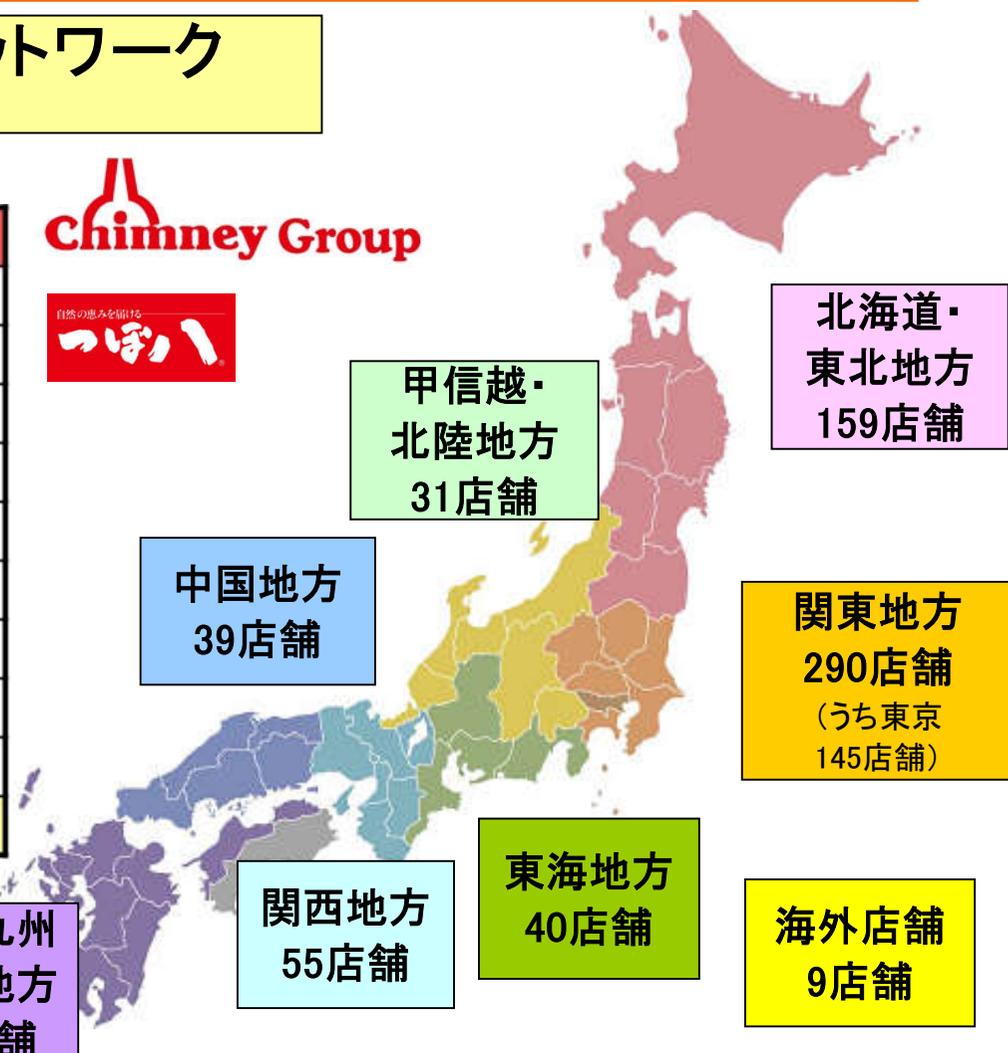
外食事業 店舗ネットワーク

国内外で668店舗のネットワーク

(2023年3月末現在)

	直営店	FC店	総店舗
はなの舞	51	57	108
さかなや道場	81	28	109
安べゑ	33	0	33
牛星	4	5	9
その他	50	66	116
コントラクト事業	94	0	94
チムニー子会社	38	0	38
つぼ八	2	133	135
伊藤課長等	2	24	26
合計	355店	313店	668店

Chimney Group



株式会社Pまじ

重要な連結子会社の状況

名称	資本金	議決権比率	主要な事業内容
やまや関西(株)	45百万円	100.0%	酒類・食料品等の小売
やまや商流(株)	38百万円	100.0%	酒類・食料品等の卸売
やまや東日本(株)	10百万円	100.0%	酒類・食料品等の小売
大和蔵酒造(株)	10百万円	100.0%	酒類・食料品の製造及び卸売
チムニー(株)	100百万円	50.8%	居酒屋を中心とした飲食業
(※1・3)(株)シーズライフ	9百万円	100.0%	焼肉屋を中心とした飲食業
(※1)めっちゃ魚が好き(株)	100百万円	100.0%	居酒屋を中心とした飲食業
(※1)(株)紅フーズコーポレーション	10百万円	100.0%	居酒屋を中心とした飲食業
(※1)魚鮮水産(株)	20百万円	83.4%	漁業、鮮魚の仕入及び販売
(※1)大田市場チムニー(株)	5百万円	100.0%	鮮魚・青果等の仕入及び販売
(※2)(株)つぼ八	50百万円	90.0% (34.0%)	居酒屋を中心とした飲食業
(※2)つぼ八酒類販売(株)	10百万円	100.0%	酒類の卸売

(※1)(株)シーズライフ、めっちゃ魚が好き(株)、(株)紅フーズコーポレーション、魚鮮水産(株)、大田市場チムニー(株)の4社はチムニー(株)を通じた間接保有の連結子会社です。チムニー(株)の4社の議決権比率は、(株)シーズライフ、めっちゃ魚が好き(株)、(株)紅フーズコーポレーション及び大田市場チムニー(株)は100%、魚鮮水産(株)は83.4%となっております。
(※2)議決権比率()内は、当社子会社であるチムニー(株)の保有率です。つぼ八酒類販売(株)は(株)つぼ八を通じた連結子会社です。(株)つぼ八の議決権比率は100%であります。
(※3)(株)シーズライフは、2023年7月1日より、チムニー(株)に吸収合併予定です。

連結決算推移

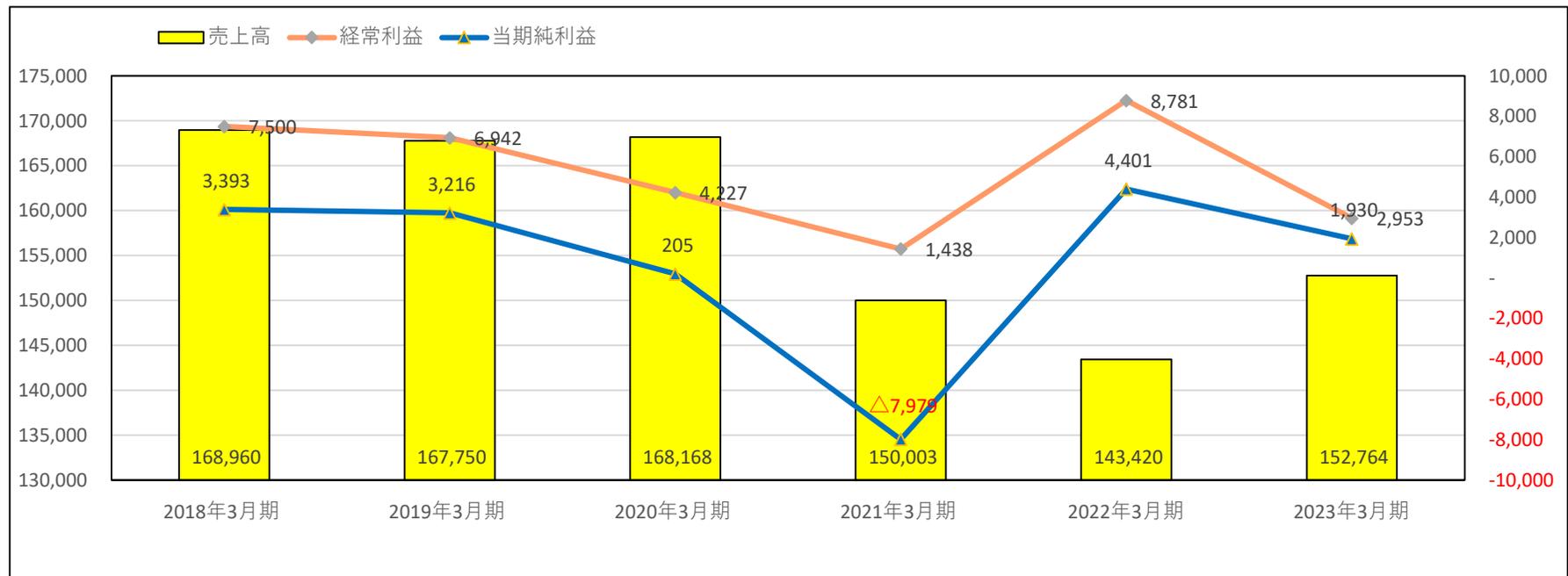
単位: 百万円

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	168,960	167,750	168,168	150,003	143,420	152,764
営業利益	7,411	6,894	4,163	△251	643	2,837
経常利益	7,500	6,942	4,227	1,438	8,781	2,953
当期純利益	3,393	3,216	205	△7,979	4,401	1,930

※収益認識基準適用による売上高影響額

-986

-1,038

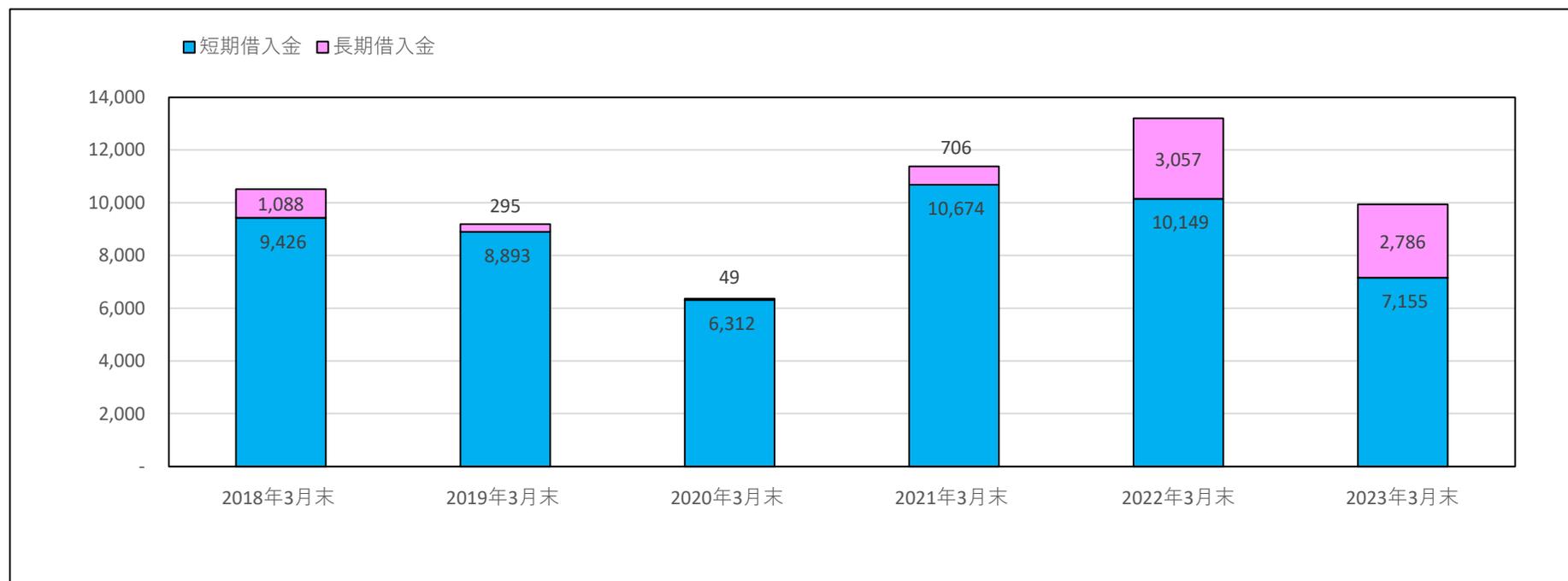


株式会社PJP

連結 借入金の状況

単位:百万円

	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末
短期借入金	9,426	8,893	6,312	10,674	10,149	7,155
長期借入金	1,088	295	49	706	3,057	2,786
合計	10,514	9,188	6,361	11,381	13,206	9,941



第2部:セグメント別 2023年3月期 の業績

酒販事業 2023年3月期 実績

- 売上高 1,303.1 億円 (前年同期比 $\Delta 1.0\%$)
- 営業利益 41.0 億円 (前年同期比 $\Delta 16.5\%$)

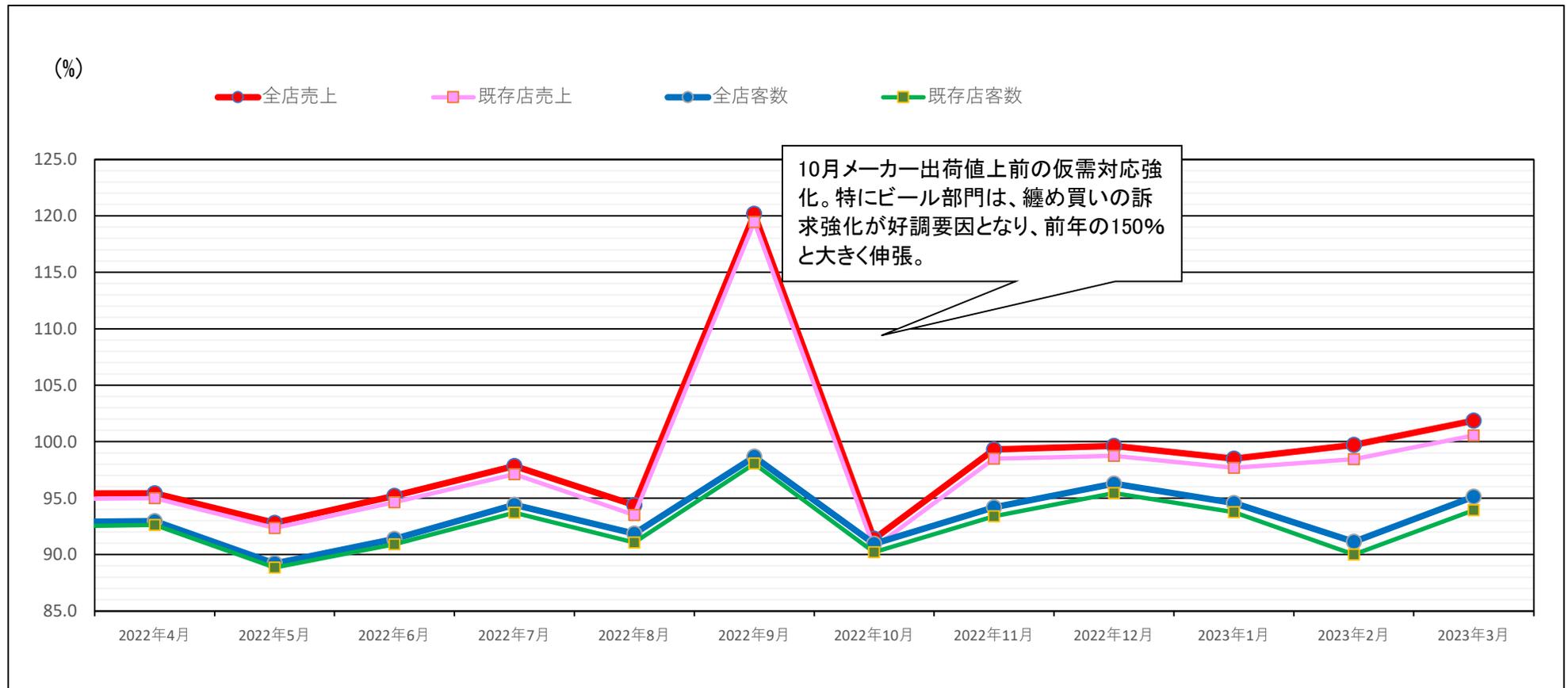
単位:百万円

	2022年3月期(前期)		2023年3月期(当期)		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
売上高	131,605	-	130,316	-	$\Delta 1.0\%$
売上総利益	27,087	20.6%	26,705	20.5%	$\Delta 1.4\%$
販管費	22,173	16.8%	22,604	17.3%	1.9%
営業利益	4,914	3.7%	4,101	3.1%	$\Delta 16.5\%$

株式会社P&P

酒販事業 2023年3月期 の業績

店舗売上及び客数 前年対比の推移

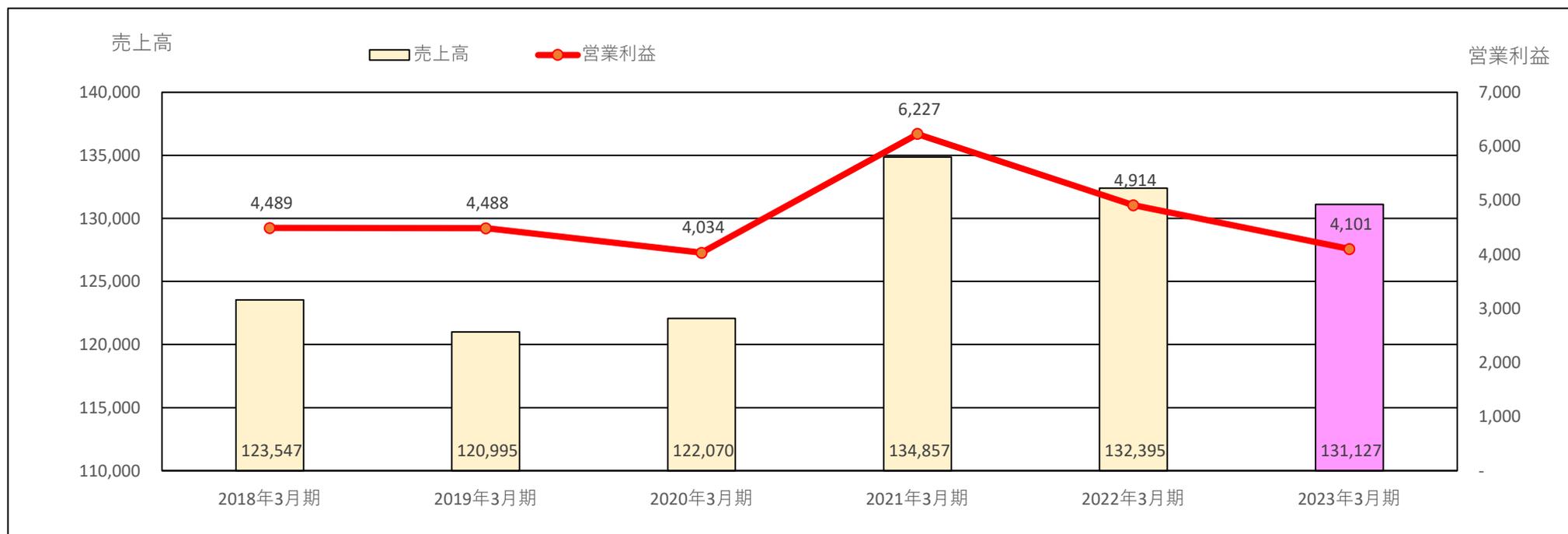


酒販事業 決算推移

単位:(百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	123,547	120,995	122,070	134,857	132,395	131,127
営業利益	4,489	4,488	4,034	6,227	4,914	4,101

※収益認識基準適用による売上高影響額 ※収益認識反映前
-790 -811



株式会社ヤマサ

外食事業 2023年3月期 実績

- 売上高 227.0 億円 (前年同期比 87.1%)
- 営業利益 △12.7 億円 (前年同期比 -)

単位:百万円

	2022年3月期(前期)		2023年3月期(当期)		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
売上高	12,133	-	22,705	-	87.1%
売上総利益	7,965	65.6%	14,672	64.6%	84.2%
販管費	12,247	100.9%	15,947	70.2%	30.2%
営業利益	△4,282	△35.3%	△1,274	△5.6%	-

株式会社PJP

外食事業 決算推移

単位:(百万円)

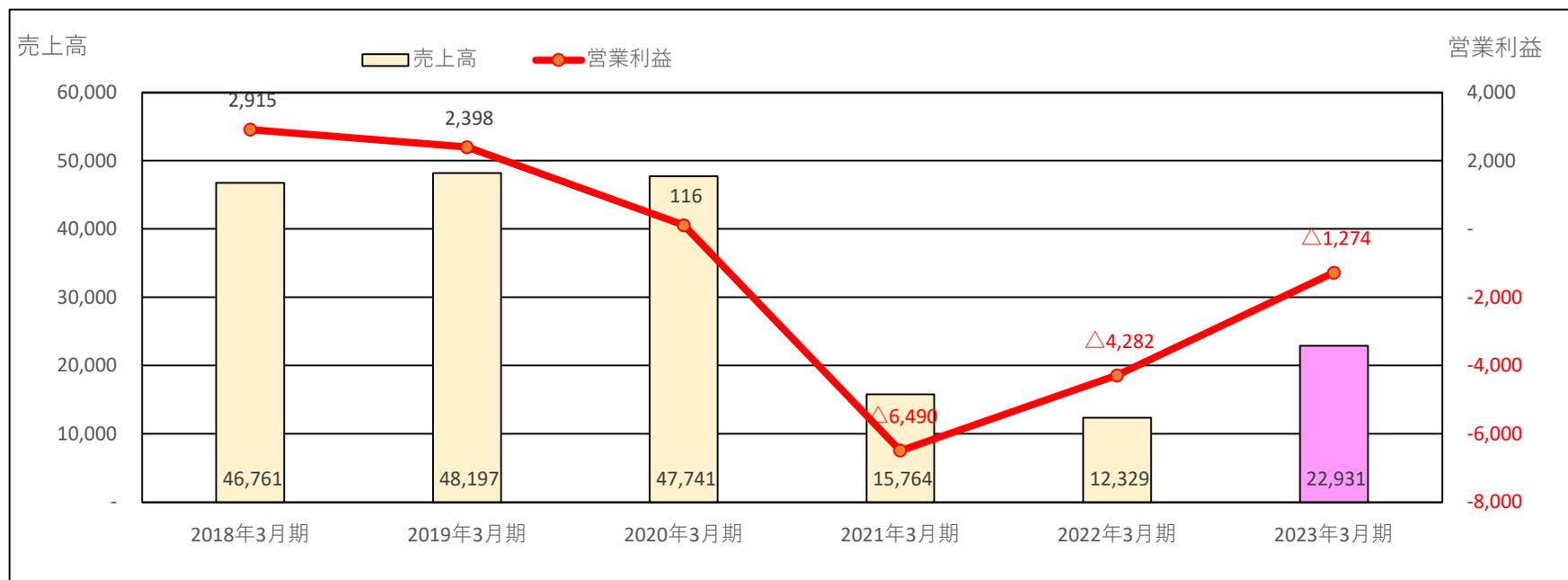
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	46,761	48,197	47,741	15,764	12,329	22,931
営業利益	2,915	2,398	116	△6,490	△4,282	△1,274

※収益認識反映前

※収益認識基準適用による売上高影響額

-196

-226



株式会社PまP

サステナビリティ

SDG's
重点取組目標



やまやグループは、「お酒」と「食」を通じて「持続可能な社会の実現」に貢献します

◆ リデュース・リユース・リサイクル（3R）推進の取り組み

酒販売する側の責任としてビール瓶や一升瓶等のリターナブル瓶の回収をはじめ、アルミ缶等のリサイクル資源の回収を行うことで廃棄物の削減やリサイクル率の向上を図り、環境と社会への負荷を軽減しながら酒の提供を行っています。

☆ ビール瓶・一升瓶・ジュース瓶等 リターナブル瓶の回収……2022年度回収実績:1,063,705 cs

☆ PETボトル・アルミ缶・段ボール等 リサイクル資源の回収……2022年度回収実績:6,263t



◆ 環境保全への取り組み

・ 環境・社会に配慮した商品の展開強化

原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった生産者から販売者、購入者、再生利用事業者などの「バリューチェーン」で環境負荷を低減させた商品をお勧めしています。

☆ 当社のワイン全体に占めるオーガニック(無農薬)ワインの販売構成比 約23.7%

・ 清掃活動・植樹活動

「海をきれいにする会」による海岸の清掃活動等への支援、「イオンの植樹活動」を通して環境問題の解決に取り組んでいます。



◆ 社会貢献への取り組み

・ 地元プロスポーツチームを通じたスポーツ振興

スポーツ振興を通してサステナブルな地域社会の実現に取り組んでいます。

☆ <オフィシャルスポンサー>

東北楽天ゴールデンイーグルス /Bリーグ 仙台89ERS /J3リーグ福島ユナイテッドFC

・ 店頭募金活動

募金活動を通して、様々な社会課題の解決に向けた取り組みに貢献しています。

☆ 海をきれいに募金 /24時間テレビチャリティ募金 /赤い羽根募金 /青い羽根募金



株式会社やまや

注意事項

本資料は、当社公表の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、現時点での入手可能な情報を元に当社が判断した、計画・見通し・戦略など、将来の業績に関する見通しにはリスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、さまざまな要因により、見通しと大きく異なる結果となり得ることをあらかじめご了承ください。

掲載内容には細心の注意を払っておりますが、当社および情報提供元は、情報の完全性、正確性、確実性、有用性、その他の保証を行うものではありません。掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関して、当社は事由の如何を問わず一切責任を負いません。

なお、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。実際の投資の際は、当情報に全面的に依拠することなく、皆様ご自身のご判断でお願い申し上げます。